

ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No.

22

2006. 7

125 宮城県図書館創立125周年記念特集

宮城県図書館のルーツを訪ねてその1



ウェットクリーニング



宮城県図書館所蔵・貴重資料修復保存事業から ●京都国立博物館内文化財保存修理所にて

友人の図書館

常盤新平

定年退職した友人は十日に一度、図書館を訪れて、三冊ばかり借りてくる。伝記類が多いのだが、小説もある。

図書館に行くのが友人の楽しみである。学生のころを懐かしく思い出すという。サラリーマンになってからは、図書館から足が遠のいた。

今は本を借りだす前に、図書室で二時間ほど本を読む。「夏なんか涼しいから、わが家より読書に向いているよ」と彼は笑って言った。

友人はもともと本好きだが、年をとって図書館がいつそう好きになった。「もう新しい本は必要ないようだ」と言う。「わたしには図書館があれば十分だよ」

友人は図書館の帰りが夕方であれば、駅前のビヤホールか居酒屋に立ちよって、かるく飲みながら、図書館から借りてきた本を風呂敷包みからとりだして、ちょっと目を通す。「こんな些細なことがこのごろは楽しいんだ」と彼は笑った。

(ときわ・しんぺい 作家・翻訳家)